

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, July, 2008

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

7月の状況 (佐藤)

☆ C/2007 W1 (Boattini) (写真 a)

7月13日、筆者から OAA 彗星課メーリングリスト (以下 oaa-comet ML という。)に「久しぶりに夜間晴れて東天に上ってきた C/2007 W1 を自宅の庭で観測しました。夜半過ぎだとなんとか東天が観測できますので、郊外に出向かないで観測できました。天頂を見ると天の川が微かにわかる程度で透明度はそれほど良いわけでもありません。暗いところならもう少し大きくそして明るいでしょね。」と報告し、更に 15 日には「今月 2 度目の観測です。高度が上がって見やすくなりました。中央集光も確りしています。…」と報告した。

17日、高知市の村岡健治氏から oaa-comet ML に「15 日の芸西の観測を加えて、しつこく改良してみました。軌道、残差、原初及び未来軌道です。Orig. 1/a は、 $-0.000053 \pm 0.000003$  で、ますますマイナス値が大きくなってきました！彗星の形は、ハンマーヘッドシャーク型で、消滅するのでは？と騒がれていますが、本当に消滅の道をたどるのでしょうか？残れば面白いのですが…」との報告があった。

原初軌道がどうなるのか軌道改良のたびに注目していたが、どうやらこの彗星は太陽系の外から来た彗星のようだ。その後、非重力効果の数値は次第に大きくなり、残差を見ると赤経がマイナス側にずれが大きくなっていったが、23 日、村岡健治氏から同じく「…W1 は、軌道からずれていくようにみられましたが、今のところそうでもないようです。…」とのコメントがあった。

21 日には、芸西天文台の関課長から oaa-comet ML に位置観測とともに「位置測定と比較星は 11 個ですが、後の二つは故意に比較星を変えてあります。15cm の屈折 55×で覗くとモーレツに明るい視野のなか、辛うじて彗星の存在が分かりました。…なおこの星は今、51P と極めて接近しています。51P は今のところ観測できていません。」とのコメントがあった。

眼視による観測が次のように報告されている。

C/2007 W1 (Boattini)

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
July	12.72	6.3	7'	3/	-	-	2/5	3/5	25×10cmB	佐藤裕久	Alt. 16°
	14.73	6.2	11	5	-	-	3/5	4/5	25×10cmB	佐藤裕久	Alt. 21°
	14.74	6.1	-	5	-	-	3/5	3/5	7×5cmB	佐藤裕久	
	15.76	7.8	6	7	-	-	4/5	4/5	55×15cmR	関 勉	
	20.72	7.5	4	6	-	-	4/5	4/5	55×15cmR	関 勉	
	28.74	7.2	7	4	-	-	5/5	5/5	25×10cmB	佐藤裕久	Alt. 41°
	28.75	7.0	9	4	-	-	5/5	5/5	7×5cmB	佐藤裕久	
	29.73	7.4	7	3/	-	-	2/5	2/5	25×10cmB	佐藤裕久	Alt. 40°
	31.66	9.3	3	3	-	-	3/5	4/5	55×15cmR	関 勉	

☆ 19P/Borrelly

7月31日、吉田誠一氏から oaa-comet ML に「観測条件の悪い 19P/Borrelly と 51P/Harrington が観測されました。どちらもまだ観測数が少ないですが、前回の回帰からの予報より、どちらも少しだけ、明るいようです。」とのコメントがあった。

眼視観測では、ブラジルの Marco Goiato が 7月9.38日 UT、22cm Schmidt-Cassegrain 反射×160で、m1=9.7, Dia.=4', DC=3; 7月13.38日 UT、m1=9.5, Dia.=4', DC=3 と観測した。

7月中に発見された彗星は次のとおり。

- ☆ C/2008 FK<sub>75</sub> (Lemmon-Siding Spring) 7月1日、Mt. Lemmon サーベイで発見された小惑星状天体 (2008 FK<sub>75</sub>) が、Siding Spring で再発見された。NEO Confirmation Page に掲載後、J. Young (Table Mountain, 0.61-m f/16 Cassegrain 反射望遠鏡) ら幾人かの CCD 位置観測者の観測によって彗星であることがわかった。(IAUC 8958, 2008 July 7)
- ☆ C/2008 N1 (Holmes) 7月1.33日 UT、Robert E. Holmes Jr. (Charleston, イリノイ州, 0.40-m f/5.8 Schmidt-Cassegrain 反射望遠鏡) が発見した小惑星状天体が NEO Confirmation Page に掲載後、P. Birtwhistle (Great Shefford, Berkshire, 英国, 0.40-m f/6 Schmidt-Cassegrain 反射望遠鏡) ら幾人かの CCD 位置観測者の観測によって彗星であることがわかった。(IAUC 8959, 2008 July 7)
- ☆ P/2008 O2 (McNaught) 7月28.69日 UT、R. H. McNaught は、Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た画像から集光した 10" のコマと p.a. 240° に 1' の尾がある彗星を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、A.

Boattini (Mt. Lemmon, 1.5-m 反射望遠鏡)ら幾人かの CCD 位置観測者によって観測された。(IAUC 8963, 2008 Aug. 1)

その後の観測により 9.5 年の短周期彗星であることがわかった。

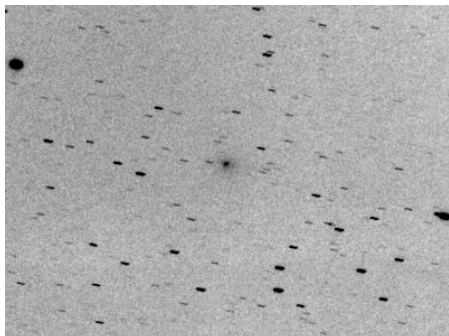
- ☆ P/2008 03 (Boattini) 7月 29.46 日 UT, A. Boattini は, Mt. Lemmon サーベイの 1.5-m 反射望遠鏡で得た画像から彗星を発見した。NEO Confirmation Page に掲載後、R. Holmes (Charleston, 0.81-m 反射望遠鏡)によって観測された。(IAUC 8964, 2008 Aug. 1)

その後の観測により 27 年余りの短周期彗星であることがわかった。

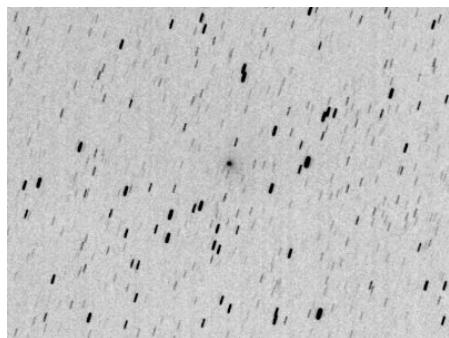
その他比較的明るい彗星は、15P/Finlay (写真 b)、6P/d'Arrest (写真 c)、C/2007 N3 (Lulin)、C/2006 0F<sub>2</sub> (Broughton) (写真 d)、C/2007 G1 (LINEAR)、C/2005 L3 (McNaught)などであった。



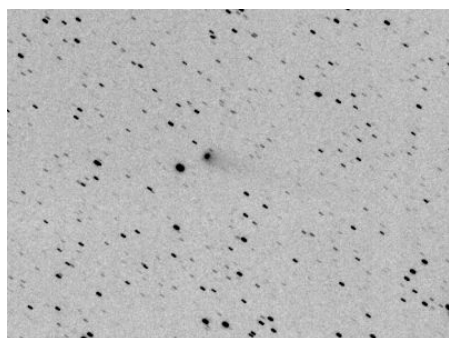
(写真 a) C/2007 W1 (Boattini) 2008, 07, 20  
3h 15.0m-25.0m (JST) exp. 60sx7 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) 15P/Finlay 2008, 07, 20  
3h 48.0m-56.5m (JST) exp. 60sx6 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 c) 6P/d'Arrest 2008, 07, 30  
22h 05.0m-15.0m (JST) exp. 60sx7 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 d) C/2006 0F<sub>2</sub> (Broughton) 2008, 07, 20  
3h 35.0m-45.0m (JST) exp. 60sx7 TOA130+CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏